

平成29年1月26日

保護者の皆様

南アルプス市立櫛形西小学校  
校長 野中 るみ子

## 平成28年度 後期学校評価の結果について

大寒を過ぎ、寒さも一段と厳しいこの頃ですが、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校教育活動にご理解とご協力を頂き、ありがとうございます。

さて、今年度の後期学校評価の結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

本校の学校評価は、学校教育目標の実現（学校経営方針の実現に向けた本年度の努力点）のための取組状況を、教職員による自己評価に加え、保護者の皆様や、児童によるアンケート調査結果を利用する中で、それぞれの立場を踏まえるとともに、これらに関わる設問に寄せられた意見や、日常的に行っている児童観察および意識調査も加味して分析し考えています。

### 【1】評価基準

全体傾向を把握するため、A B評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断した。また、C D評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断した。

(A: そう思う B: だいたい思う C: あまり思わない D: そう思わない E: わからない)

### 【2】全体的な傾向

児童・保護者・教職員の3者ともに、ほとんどの項目で肯定的な【A】【B】評価が80%を超え、否定的な【C】【D】評価が20%を超えるものはわずかであり、前年度後期、本年度前期同様、良好な結果であった。

学校生活の楽しさの調査項目（児童：「学校は楽しかった。」 保護者：「子どもは楽しく学校へ行っていた。」）では、児童97%、保護者98%が【A】【B】と評価した。特に、保護者の肯定的評価は高く、【A】だけでも前年度の75%から本年度は78%へと数値を上げた。また、前期同様、不登校と認定される児童はいないため、本校は現在、概ね「満足できる状況」にあると考えられる。しかし、今後一層向上するためには、楽しくないと感じている児童に対して、個別に対応策を検討したり、集団の在り方をさらに高めたりするなどして、よりきめ細やかな指導を継続していくことが課題と考える。

### 【3】個別の分析

#### (1) よく考え、進んで学ぶ子どもの育成【確かな学力】

学力 = ①基礎的・基本的な知識・技能の習得 ②思考力・判断力・表現力  
③学習意欲・態度

学習内容の理解に関する項目では、児童・保護者とも肯定的評価が90%を超えた。これは前期同様、児童のまじめな学習態度や、少人数でのきめ細かな指導、また、数々の有益な体験活動に基づいた学習指導の成果であると考えられる。

本校では、学習でつまずきの見られた児童を対象に、放課後個別に補習を行う取組を継続して行っている。また、全校一斉に漢字と計算の学力診断もそれぞれ毎月行っている。これら

の取組によって、児童の学習の定着の度合いがより詳細にわかり授業内容の充実に直結するため、今後も継続していきたい。

また本年度は、外国語活動(英語活動)の指導力向上をめざし、校内研究会や先進校での学びを繰り返し行ってきている。特にそれぞれの教員が提案授業を行ったり、外国語講師による発音練習や指導研修会を行ったりするなどして、校内での研修を充実させることが出来た。本校から世界的な視野で活躍できる人材の



輩出を夢見て、今後も効果的な指導方法等について研修を重ねていく。

一方で、保護者アンケートにおいては、家庭で落ち着いて学習に取り組めていない状況が今年も浮き彫りとなった。本年度、県教委からも「家庭学習のすすめ」《学びの甲斐善八か条》という冊子を全家庭に配布し、『確かな学力』を身につけるために家庭学習が極めて重要であることを伝えている。本校でもこうした状況を鑑み、家庭学習の充実のための手始めとして、「学習時間の各学年の目安」に加えて「連絡帳の充実」の取組を各家庭にお願いする学校便りを配布した。家庭学習については、学校と家庭がお互いに協力をして取り組むことが大切であるので、今後も児童・家庭に対して指導・啓発をますます進めていく予定である。



## (2) 思いやりの心をもち、助け合う子どもの育成【豊かな心】

### ※いじめに対する取組について

まず、いじめに関わることについては、児童同士の優しいお付き合いや、意地悪なことを繰り返ししないなどについて、どちらも9割以上が肯定的に回答した。残り数人の否定的回答をした児童に対しては、担任が事実確認と関係児童への指導を行ったり、保護者への連絡などを行ったりするなどして、当事者間で相互に理解し合えたことを確認できている。保護者からも「学校は、いじめを防ぐための指導を適切に行っていた」の項目で99%が肯定的回答を頂いていることから、いじめに発展するものではないと判断している。

今後においても、いじめ防止は本校の最重要課題としてとらえ、小さなトラブルもいじめに発展する可能性を排さず、きめ細かな指導を継続しく所存である。

「こころ」を育てるための様々な教育活動については、どれも高い評価を得ている。特に、「自然体験活動を取り入れた学習活動の充実」については、全教職員が【A】と評価した。本校はユネスコスクールの指定を受ける県内でも稀有な学校であり、周辺地域もユネスコエコパークとして世界に誇る環境を備えているが、教育活動においても、その環境を有効に利用していることの表れととらえることが出来る。また、その教育を効果的に支援する地域の教育力もまた大きな支えとなっている。



さらに毎年学校を開放して道徳授業を公開し、来校者から頂いた感想をもとに反省会をもつなどして、さらなる内容の充実を図っている。また、小笠原流礼法とも関わらせる中で、児童の道徳的実践力の向上を図っている。

一方で、携帯やスマホ(以下、携帯電話等)の保有率は、45%に達している(児童回答)。家庭生活の多様化により、保有率は年々増加傾向にあるが、携帯電話等の使い方の約束が決めている家庭も88%に増加している(前年度後期70%、本年度前期82%)。本年度は、児童と保護者両方を対象にして「ケータイスマホ教室」を初めて開催したこともあり、数値の向上につながったと考えられる。今後も携帯電話等の利用のみならず、安易なネット接続が招く犯罪やトラブルに巻

き込まれないために、継続して啓発活動が続けていく。

### (3) じょうぶな体でがんばりぬく子どもの育成【健やかな身体】

全体として高い評価であった。

2学期より、南部給食センターによる配食が始まり、新しい給食の時代が幕開けとなった。前期の本委員会でも心配された食育については、同センターより定期的に栄養士が来校し、配膳～喫食～片づけまでを観察するなどして、情報収集や新たな指導計画の作成に努めている。

同時に学校からも毎日の検食簿への記入を通じて、食の安全確保と合わせ、様々な要望をセンターに届けている。しかし、児童と作り手が直接交流できる機会は無くなったため、我々教員がその橋渡しを担う場面は多く、今後、センターが作成する指導計画とともに、本校独自の指導も加えて更なる食教育の充実を図っていきたい。



児童の体力については、全国的に低下傾向が見られるが、本校においても走力は高かったものの、敏捷性や持久力については課題が残った。これらの状況から本校では、外遊びの楽しさを児童に知らせることによって体力の向上を図ろうと、県教育委員会より「地域で取り組む、学校元気アップ事業」推進校の指定を受け、県教委の指導も受けながら、「あそび発見市」「元気アップタイム」などを定期的開催している。検

証のための体力テストは今後実施予定だが、遊びながらの体力向上に期待を寄せているところである。

安全・防災について、本年度初めて南アルプス市消防本部の協力を得ながら、煙道体験を実施した。設営されたテント内に充満した煙の中を、姿勢を低くして避難する児童や、逆に高い姿勢のままで歩いたために、行き先を見失う体験をする児童など、実践的避難訓練として大いに効果のある機会とすることが出来た。



### (4) 家庭や地域社会と連携し、信頼される学校を作る【信頼される学校づくり】

比較的高い評価を得ることができ、満足な状況であった。

本年度、PTA生活指導部の発案により、校名が記されたビブス(ちょっき)を15枚作製した。これらは、地域の登下校見守りの方々に使っていただいたり、本校職員が校区に出かける際に利用したりするなどして、地域とともに歩む開かれた学校づくりに役立つことを期待している。



家庭との連携についても大変良い回答を頂いた。「先生は、子どもに対し親身になって対応をしていた」「学校は、保護者や地域と連携した教育活動を進めていた」の2項目で肯定的回答が100%であった。日頃から小さなことでも家庭と情報を共有したり、保護者や地域の方々の意見や要望に対しては、真摯に耳を傾け、実現可能なことについては、早く誠実に実行したりしていくよう努めてきた。今後もこの良好な関係を維持、発展していくため、様々な手段で本校の教育活動について積極的に情報発信していく。

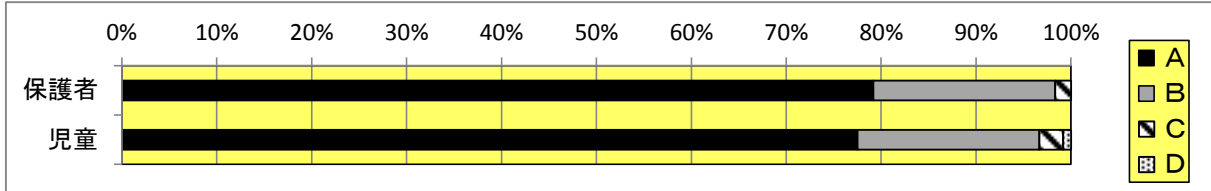
# 平成28年度 後期 学校評価の結果

## 【グラフの見方】

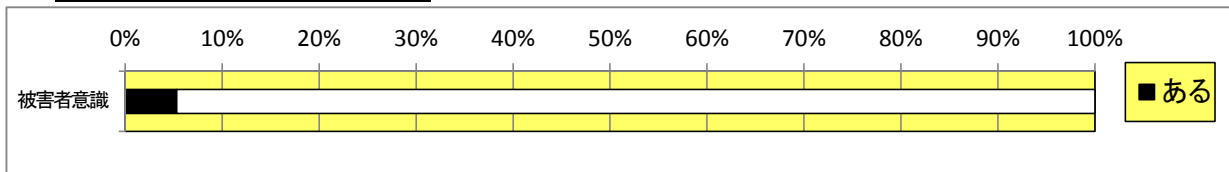
質問 番号	質問対象者	A とてもそうおも	C あまり思わない
	質問内容	B そうおも	D 思わない
		E わからない	

子どもたちの教育の幹となる項目8つをピックアップして表すとともに、皆様から頂いた回答に児童と教職員の回答を加え、3者を比較できるように並べました。(1番、2番を除く。)

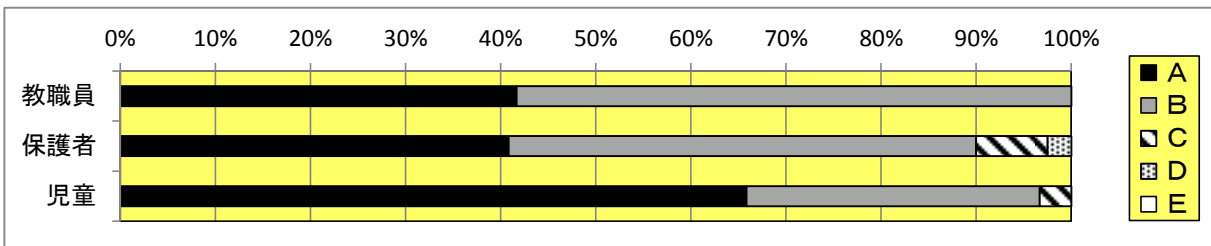
保護者	児童
子どもは、楽しく学校へ行っていた。	学校は楽しかった。



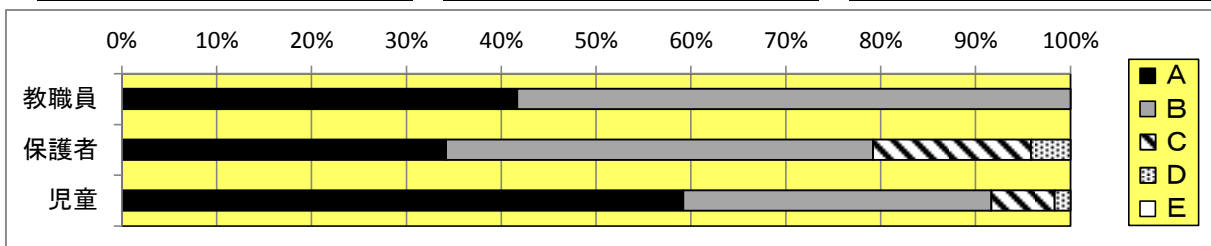
児童 (被害)
あなたは、友達にいじわるや、いやなことを繰り返されたことはありますか。



教職員	保護者	児童
基礎的な知識・技能を習得させることができました。	子どもは、授業の内容を理解できた。	授業(勉強)はわかった。



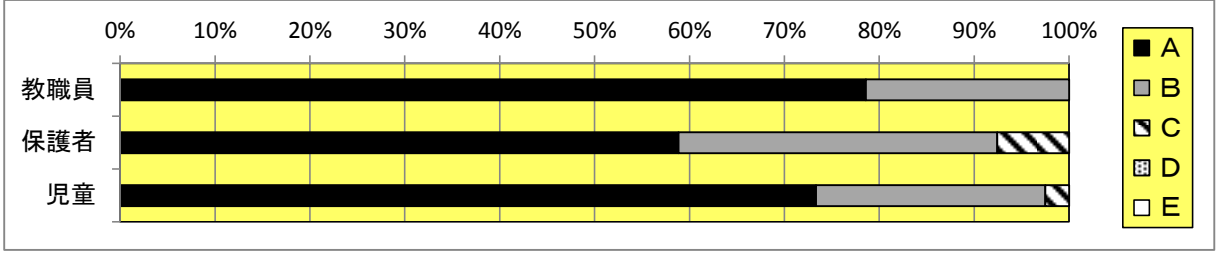
教職員	保護者	児童
家庭と連携しながら、学年に応じた家庭学習の習慣化と充実を図ることができた。	子どもは、毎日宿題などを落ち着いてできた。	毎日、宿題などを落ち着いてできた。



教職員  
適切なあいさつの指導に努める  
ことができた。

保護者  
子どもは、元気のよいあいさつ  
をしていた。

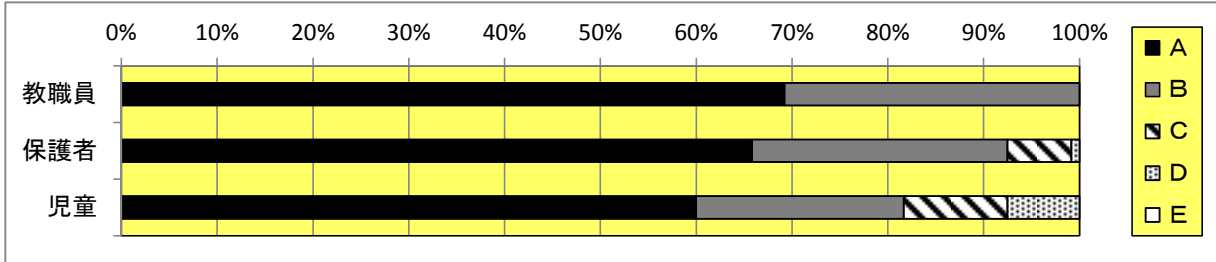
児童  
元気のよいあいさつができた。



教職員  
楽しく運動し、体力の向上や安全  
について実践する力の向上に  
努めることができた。

保護者  
子どもは、体を動かし元気に遊  
べていた。

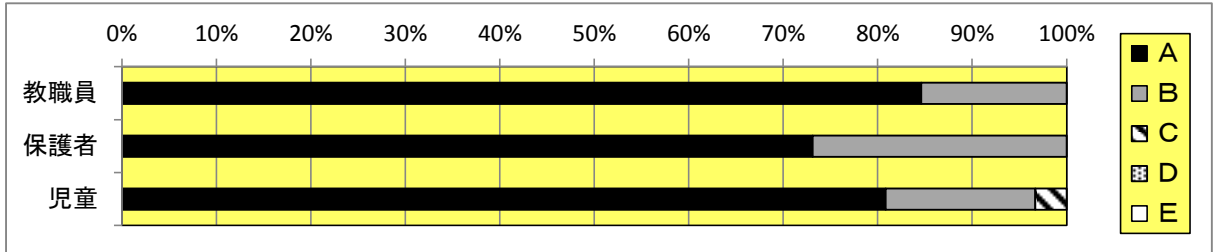
児童  
校庭で運動や遊びができた。



教職員  
身のまわりの安全・防災につい  
ての指導を通して、実践化を図  
ることができた。

保護者  
学校は、安全・防災について適  
切な指導をしていた。

児童  
自分の身を守るために、どう行  
動すればよいかわかった。



教職員  
教育活動に地域の教育力や人材  
を生かすことができた。

保護者  
学校は、保護者や地域と連携し  
た教育活動を進めていた。

児童  
地域の人たちから教えてもらっ  
た授業は楽しかった。

